

生野中学校区「義務教育学校生野未来学園」ならびに  
大池中学校区小中一貫校開校に向けた説明会 開催結果

1 日 時 令和3年8月2日(月) 午後7時から午後8時20分

2 場 所 大阪市立舍利寺小学校講堂

3 参加者 25名

4 出席者

(学校園)

庄司舍利寺小学校長

(教育委員会事務局)

樋口総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、大川生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理、川楠生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理

5 説明概要

- ・説明資料に沿って説明を行った。

6 質疑、意見等の概要

(参加者A)

- ・小中一貫校や生野区で再編した中学校で、開校する時に子どもや教職員などから出た意見、クレームやトラブルなどに対して、どのようなアフターフォロー、ケアをしているのか。

→ (回答)

- ・2年前に鶴橋中学校と勝山中学校を再編して桃谷中学校として開校し、開校の半年後に取っている保護者、生徒へのアンケート結果からは、何か問題があるということとはなかった。小さいトラブルは学校で対応していると思うが、生野区役所や教育委員会のほうに報告は入っていない。
- ・区役所としても、再編後も定期的に校長から聞き取りをしており、その中でもトラブルといったものは今のところない。それ以外に、こんな取り組みをしたいという要望があれば、その実現に向け検討を行っている。
- ・基本的には、何かあれば、各学校の学校協議会に報告されると認識している。
- ・御幸森小学校と中川小学校を再編した大池小学校でも、開校半年後にアンケートを取る予定になっているが、今のところトラブルになったという話は聞いていない。
- ・なお、大池小学校で図書室を改装するなど、学校から充実させたいことなど要望を聞き、教育委員会での予算措置や区役所としての支援などフォローできる体制になっている。
- ・アフターフォローのシステムに関しては、再編による子どもの不安をできるだけ

軽減するためにスクールカウンセラーを配置している。もともといた先生に相談できるとよいが、場合によっては、先生以外のほうが相談しやすいということもある。法的な問題に対しては、スクールロイヤーという制度がある。

- ・また、教育委員会が全面的にバックアップするということで、校長を囲んで、必要性がなくなるまで、フォローアップ会議を毎月実施している。教員の加配もアフターフォローのシステムに入ると言える。

(参加者B)

- ・スクールカウンセラーは、今どれくらい来ているのか。機能しているのか。

→ (回答)

- ・現在は、2週に一回、水曜日に来ている。子どもたちが相談しやすくできるように、教室に顔を出したりしている。いつでも相談してほしい。
- ・再編後は、現在より厚く配置することとしており、大池小学校においては週3日の配置となっている。
- ・ただ、子どもも見知らぬ人といきなり話はできないので、スクールカウンセラーは、子どもたちとの人間関係をしっかり作るため、日々、取り組み、そういった中で相談しやすい関係づくりを行っていく。現在、大池小で実施していることは、生野未来学園でも実施していく。

(参加者C)

- ・区内全域で学校選択制を導入することに関して、遠距離を通うことになる子どもの安全は、もちろん保護者の責任だと思うが、車で連れてくる場合に学校近辺に駐停車してトラブルになるなど想定しているか。
- ・また、公共交通機関を利用するにあたり、何か配慮があるのか。

→ (回答)

- ・来年、令和4年の新入学生から、区内全域で学校選択制を導入する。学校選択制で住んでいる校区と違う校区を選択する場合は、通学に関する対策は保護者の責任になる。
- ・遠距離で、車で送迎する場合の路上駐車について、既に選択制を導入している生野区東部地域において、何かトラブルになっているというような話は、今のところ聞いていない。
- ・また、現在、事前の対策は取っていないが、今後、選択制を導入したことによって、近隣への迷惑となることが出てきた時点で、きちんと対応してまいりたい。
- ・ちなみに、生野区以外の全区で既に学校選択制が導入済みであるが、今のところ登校時の路上駐車の問題は聞いていないが、万が一、出てきた場合は、しっかり対応していきたい。
- ・公共交通機関の利用に関して、校区内の子どもは基本的に徒歩での通学であるが、校区外からの通学で、事情がある場合は公共交通機関を認めているケースもあるので、個別に学校とご相談いただきたい。

(参加者A)

- ・標準服等は「貸与する」ということだが、返却することが前提となっているのか。

→ (回答)

- ・貸与としていますが、標準服等の種別ごとに1年間等の貸与期間を定めており、貸与期間を過ぎれば、返納は要しないこととしている。

(参加者B)

- ・「児童いきいき放課後事業」から、午後5時に、もと小学校へ連れ帰るとなっているが、学校跡地の活用が始まって、継続して実施してもらえるのか。

→ (回答)

- ・今回の事業は、学校再編によって生じる効果額を活用して実施するものであり、現時点で、未来永劫続けると約束はできないが、学校再編がこの事業をはじめのきっかけになっていることから、できる限り継続していきたいと考えている。そのためには、利用実績を見て効果検証を行いながら、事業継続について検討し、予算を確保していく必要がある。1、2年で終わるということではなく、できる限り継続していきたい。

(参加者D)

- ・生野小や舎利寺小で民族学級があったが、生野未来学園では引き継がれるのか。

→ (回答)

- ・子ども一人ひとりの、生まれ、これまでの育ちといったものをしっかり肯定的に捉えられるように、誇りをもって成長していけるように、生野未来学園の国際クラブのあり方については、具体的な活動について検討しているところなので、ご安心いただきたい。

(参加者E)

- ・教職員の加配について、実際、どれくらいの職員が加配されるのか。

→ (回答)

- ・具体的には、2年生から6年生まで、それぞれ一人ずつ加配するので、他校に比べて、小学校の段階では5人多い。中学校は、小中一貫校になるという、学校再編を理由として加配するので、1名プラスされる。

(参加者E)

- ・何年くらい続くのか。

→ (回答)

- ・教員数は学級数に見合っただけで配置される。それに、教務主任や習熟度担当の教員数を加え、小学校段階であれば、さらに加配の5人をプラスして配置される。

(参加者E)

- ・子どもの人数で学級編成が変われば、加配される人数も変わるということか。

→ (回答)

- ・加配される人数は同じだが、学級数が増えればもともと配置される教員数が増える。

(参加者E)

- ・担任の先生が増えるということか。

→ (回答)

- ・教員が増えたことによって、どう活用するかは学校に委ねられる。
- ・学級数を増やすという考え方もあるが、教室数には限りがある。通常、教室は、学級数に応じて作られるので、今回の増築工事で作られる教室数は限られている。
- ・通常であれば、3学級を4分割して習熟度別に少人数学習を行い、一人ひとりにきめ細かい支援をしていこうという考え方が多い。
- ・それに対して、加配することで教員数にゆとりができ、小学校の先生が中学校の授業に入り込み、小学生の時に気になっていた子どもをフォローする、ということもできる。
- ・教員をどのように配置するかは学校裁量になるので、学校に大きな裁量を与えて、子どもたちにより有益に働くように努めてまいりたい。

(参加者E)

- ・通学路に関して、検討の進捗状況を教えてほしい。
- (回答)
  - ・生野中学校区では、学校適正配置検討会議の安全対策専門部会で議論させていただいており、ご要望に対して、できるだけ改善できるような形で対応している。大池中学校区においては、学校適正配置検討会議でご意見をいただいた部分について、建設局、警察と調整し、検討を進めている。

(参加者B)

- ・教員の加配という説明があったが、欠員の穴埋めもできていない状態で、新校になった時に、それだけの人数の教員を確保できるのか。
- (回答)
  - ・新しく確保するというよりは、教職員の人事異動により4つの小学校から希望者が異動していく。
  - ・子どもの人数が少なくなっているものの、生野未来学園の教員数の想定と現在の学校の教員数を比較すると、現在の4小学校の教員数の方が多い。そのうち、多くの教員が生野未来学園への異動を希望されたとすると、理想的な形として、4つの小学校から各学年に一人ずつ配置する、ということが計算上は成り立つ。
  - ・十分に多い人数であることは間違いないが、今の学校の先生がどれだけ新しい学校に行くかということは別問題であり、人事異動の要素には、当人の希望もある。
- (補足説明)
  - ・よくいただく質問に、スクールバスを走らせないのか、というものがある。
  - ・大阪市のルールでは、小学生の通学距離は2km以内を原則としているが、国の基準では、通学距離は4km以内という設定になっている。
  - ・今回、再編によって、舍利寺小学校区では、生野未来学園、いまの生野中学校の正門まで、最長約1.6kmであり、舍利寺小学校への通学距離と比べると長くなるが、大阪市の基準の2kmを超えておらず、誠に申し訳ないが、スクールバスを走らせるということはできない。
  - ・なお、舍利寺地域を含むエリアでA I オンデマンドバスの社会実験が始まっており、

今後、本格的に導入される状況になれば、区としても、例えば、低学年や特別に支援を要する子どもたちに対して何かできないか、検討していかないといけないと思っている。約束できるわけではないが、今後、そういった交通制度、乗り物ができてくれば、そういったことに期待したい。

- ・また、在校生も学校を選択できるようにしてほしいという要望も、これまで、舍利寺小学校区の説明会や意見交換の中で多くいただいていた。特にこの舍利寺小学校は生野中学校区と大池中学校区に分かれることから、小学生が、在籍中に友達と分かれるのが悲しい、どちらの学校でも選べるようにすることはできないか、という声をたくさんいただいていた。
- ・そのような声にお応えして、今回、特例として、新入学時の学校選択制だけではなく、来年4月のタイミングに限り、在校生も新しくできる学校を選ぶことができる制度を導入する。
- ・ただし、生野未来学園は各学年3学級、大池小学校は各学年2学級と想定しており、その学級数の定員が受入可能人数になる。それを超える場合は公開抽選で決定する。
- ・仮に抽選になったときでも、舍利寺小学校の児童がどちらかの学校を選ぶ場合は、優先順位を一番にするという形で実施することを検討している。

(参加者F)

- ・今現在の、新1年生にあたる子どもが長距離の通学をする際に、なにか配慮があるのか。例えば、家庭の都合により保護者が送ってもよいとか、各自で配慮してもらえるのか。それとも、絶対に徒歩という決まりがあるのか。

→ (回答)

- ・基本的には校区内の通学は徒歩であるが、特別に支援を要する児童など、学校とご相談いただき、どういう形がよいのか一緒に考えていくことになる。
- ・生野未来学園で、低学年の子どもが、登下校時にランドセルに荷物がいっぱいになったり、特に月曜日は両手も荷物でいっぱいになるといったことに対して、荷物を減らすような工夫ができないか学校と相談させていただいているところである。

(参加者A)

- ・この場で質問できなかったり、今後、質問したい場合はどうしたらよいか。

→ (回答)

- ・この場だけでなく、この場に来られていない方に対しても含めて、今回の説明資料を、できたら学校を通じてか、区役所のHPか何かで、公開するような形を検討させていただいて、そのうえでまた、ご質問等あれば、直接いつでも区役所の方に連絡いただけるような形を採ってまいりたい。